

田淵 謙一

われもの

特集 2

「理学部移転 “成功談・失敗談”」

理学部地史学講座 沖村 雄二

移転は研究にもカリキュラムにも大きく影響する。その影響をできるだけ小さくして、できるならこの機会に優れた新体制を！この特集は、まだまだ続く移転作業において、無駄になるかも知れない費用と時間と労力を使わないために、そして新しい出発のための参考になればと企画した。

理学部移転作業を振り返って

理学部長 西川 恭治

理学部本体の新キャンパスへの移転は、平成三年八月一日より九月二十四日まで行われた。まだ、植物遺伝子保管実験施設と植物の圃場等の移転が本年三月まで残っているが、事務室も含めて、全体のほぼ九割が移転を無事予定通り完了した。まずは、ご協力頂いたご関係の皆様方に厚く御礼を申し上げます。

移転作業は約二カ月に及ぶものであったが、幸い天候に恵まれて、一日たりとも遅れることもなく、大した破損等の事故もなく、また、運送業者との呼吸もピツタリ合って、和気合い合いのうちに終了した。

このように移転作業が極めてスムーズに運んだ理由としては、いくつか考えられる。まず第一に、移転物品の事前見積りが極めて正確に行われたこと、第二に、それに基づく作業日程の作成が周到に練られたこと、第三に、移転作業に当たった諸注意が、教職員に良く徹底していたことなどが挙げられる。これらのことは、ひとえに菅原前理

学部長の的確な指揮のもと、事務職員が一致団結して努力された賜物である。また、鳥居事務長が教育学部移転のときの事務長として、その経験を活かされたことも、大きな強みであった。

とはいえ、他には移転経験者がいるでもなく、皆素人なりに知恵をしばって作業に当たったのであるから、いろいろ苦労したことや失敗談もない訳ではない。その中から、思い付くままに記してみよう。なお、私は主に荷物の搬出側にいたので、以下に記すことは、いずれも搬出に当たって気付いたことばかりである。

まず第一に、引越越し荷物というのは荷造りをするのが増すということである。しかも、荷造りのすんだものから部屋の外へ出さないと、その先の荷造りが出来ないことになる。その結果、どうしても廊下に荷造りした荷物が溢れてしまうのである。廊下が荷物で一杯になると、荷物の積出し作業の妨げとなる。短時間で効率良くトラックに荷積みを行うためには、荷物を運ぶ台

車がスムーズに廊下を流れるようにすることが必要である。従って廊下の荷物から先に運び出すことになるわけだが、それでは研究室の都合で困るという事態が起こり得る。次第に慣れてくると、そのことを事前に関係の研究室に伝えることによって、協力して頂くことが出来るようになったようである。

第二に、荷物は下の階から順に搬出する方が手際良く進むものである。というのは、上階の荷物を運び出すときには、エレベーターの待ち時間が律速



理学部移転第一日、出発式